



胃がん 2023年7月版

# Oncologist Fact Report

胃がん診療医の治療状況と  
情報収集レポート

医師編

株式会社メディカルトリビューン

Gastric Cancer 2023



## 東邦大学大学院 消化器外科学教授・臨床腫瘍学教授 島田英昭 先生

近年、胃がんの薬物療法は新規抗がん薬、免疫チェックポイント阻害薬や抗体薬物複合体を含む分子標的薬の実臨床での処方が増え、長期予後を含めた治療成績が着実に向上しています。さらに新たな作用機序を持つ治療薬も承認申請され、よりいっそうの治療成績の向上が期待されます。そのような診療環境において、薬物療法の使用状況や情報収集といった胃がん診療に従事している医師の診療実態について、前回（2022年）の調査から1年が経過したことを受け、実臨床での動向を正確に把握する目的で今回あらためて調査を行いました。2021年の『胃癌治療ガイドライン』改訂から2年が経過し、臨床現場にガイドラインが十分に浸透している現在の診療実態が良く反映されています。

治癒切除不能な進行・再発胃がんにおいてはHER2検査、PD-L1検査、MSI/MMR IHC検査などのバイオマーカー検査が薬物療法の選択に必須となっていますが、検査の実施は各施設の環境に大きく左右されます。今回の調査では各バイオマーカー検査の実施率に加え、検査体制についても尋ねました。その結果、特に、PD-L1検査とMSI/MMR IHC検査に関しては、施設内での実施は2割程度にすぎないことが明らかとなりました。一方で、結果報告までに要する時間（TAT）の観点から、自施設での検査実施を理想とする回答が多く見られました。時間に制限のある実臨床においては、時間や手間が省ける検査体制の充実が今後の課題だと考えられます。

胃がん治療に携わる医師がどのような方法で情報を入手しており、その情報をどのように実臨床に生かしているのかという点において、非常に示唆に富む調査結果が示されています。本レポートが胃がん診療の質向上とさらなる治療成績の向上に貢献できることを期待しています。

# 目次

1	本サービスご提供の背景・胃がんに関するレポートに取り組む背景	4
2	調査概要	7
	● 回答者属性	
3	エグゼクティブサマリー	13
4	調査結果詳細	
	● 第1部：胃がんの治療実態	
	– 4-1：検査の実施状況	19
	– 4-2：薬物療法の実態	
	● 治療薬／レジメンの使用状況	45
	● 治療薬／レジメンの評価（認知・処方満足度・処方意向）	80
	– 4-3：開発品の認知状況	100
	– 4-4：チーム医療／治療方針	106
	● 第2部：胃がんを診療する医師の情報収集実態	
	– 4-5：専門／非専門領域の情報収集経路	120
	– 4-6：タッチポイントジャーニー	140
	– 4-7：MR／MSL／オンラインMR評価	183
	– 4-8：2022年度に開催された学会	193
	– 4-9：キャズム理論を参考とした回答医師のグループ分けによる考察	201

# 調査概要

## 調査 対象者条件

1. 消化器内科、消化器外科、腫瘍内科のいずれかに該当する病院勤務医
2. 直近1年間に切除不能進行・再発胃がんの患者、2人以上に化学療法を施行している  
※2022年6月版：直近1年間に胃腺がんの患者を1人以上診療している

## 標本抽出

Medical Tribune ウェブ 医師会員

## 調査手法

WEBアンケート調査

## サンプル数

253ss ※2022年6月版：242ss

## 調査時期

2023年5月19日～23日  
※前回調査：2022年4月25日～5月9日

## 対象薬剤/レジメン

治療薬/レジメン	試験名	発売/適応取得
オブジーボ+化学療法	CheckMate-649試験	2021年11月
キイトルーダ	KEYNOTE-158試験	2018年12月
サイラムザ+パクリタキセル	REGARD/RAINBOW試験	2015年3月
アブラキサン	ABSOLUTE試験	2013年2月
ロンサーフ	TAGS試験	2019年8月
エンハーツ	DESTINY-Gastric01試験	2020年9月

## レポート内で使用する治療薬/レジメンの略語一覧

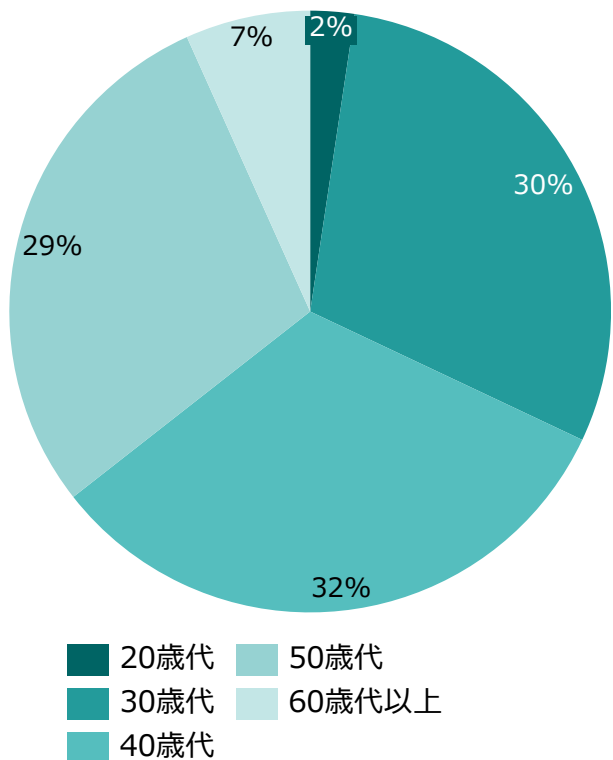
治療薬/レジメン	略称
テガフルル・ギメラシル・オテラシルカリウム	S-1
シスプラチン	CDDP
カペシタビン	Cape
S-1+オキサリプラチン併用療法	SOX
カペシタビン+オキサリプラチン併用療法	CapeOX
5-フルオロウラシル+レボホリナートカルシウム +オキサリプラチン併用療法	FOLFOX
トラスツズマブ	T-mab
パクリタキセル	PTX
ラムシルマブ	RAM
ナブパクリタキセル	nab-PTX
トリフルリジン・チピラシル	FTD/TPI
塩酸イリノテカン	IRI
トラスツズマブ デルクステカン	T-DXd

### 全体

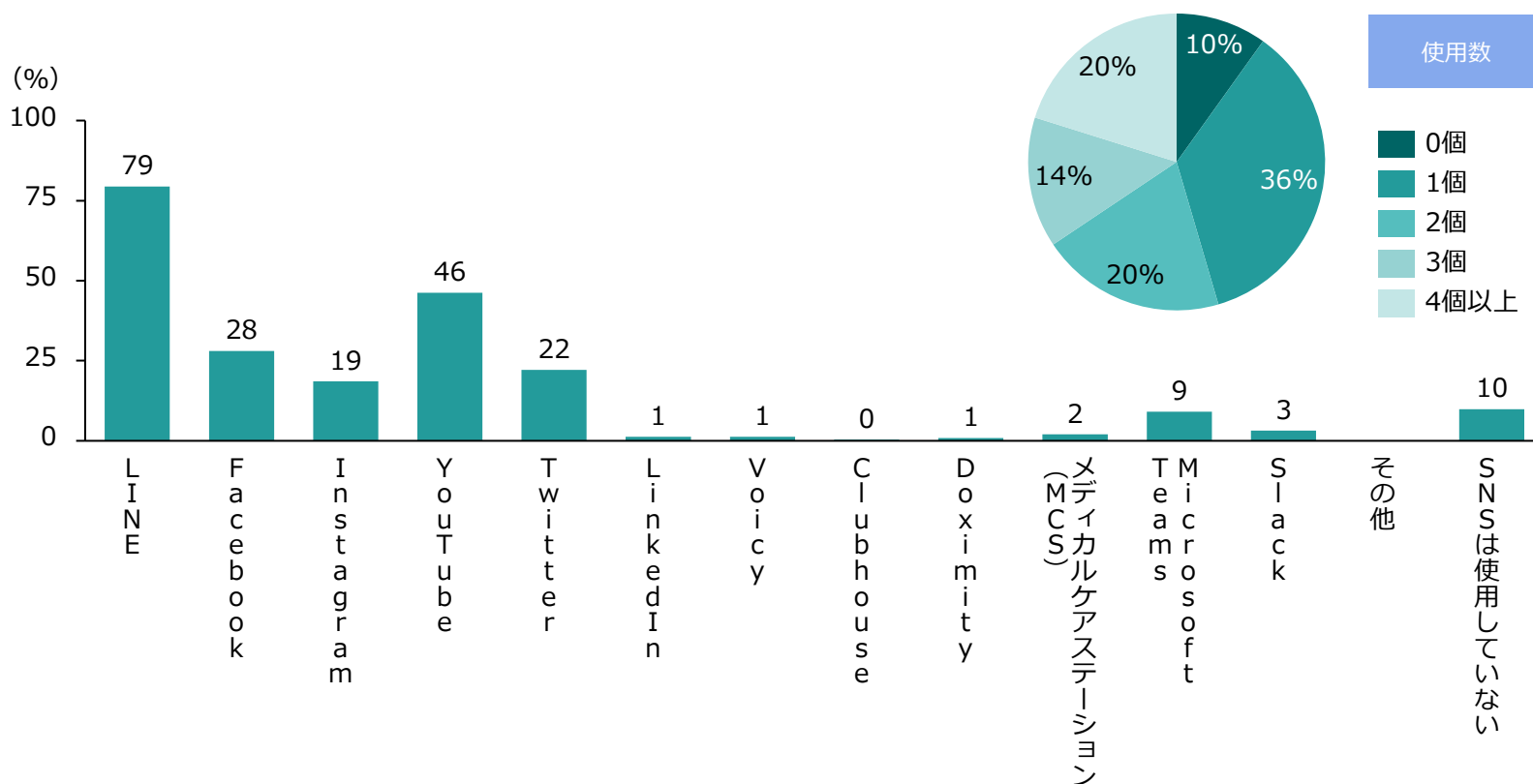
- ✓ 年齢層は30～50歳代が中心であった
- ✓ プライベートで使用していたSNSの使用数は1個が36%で最も多かったが、複数使用している割合が半数以上を占めた
- ✓ SNSの種類はLINEが最も多く、次いでYouTube、Facebookだった

(n=253)

### 年齢層



### プライベートで使用するSNS



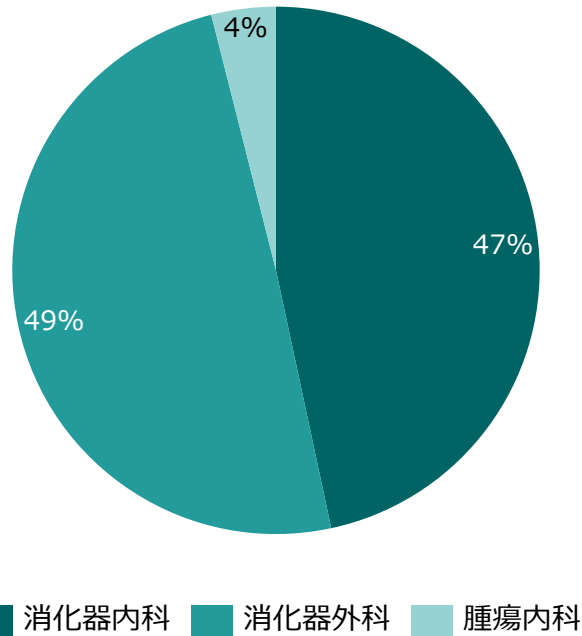
F2.先生のご年齢（世代）を教えてください。/F8.先生がプライベートで日常的に使用しているSNSについて、当てはまるものを全て選択してください。（MA）

### 全体

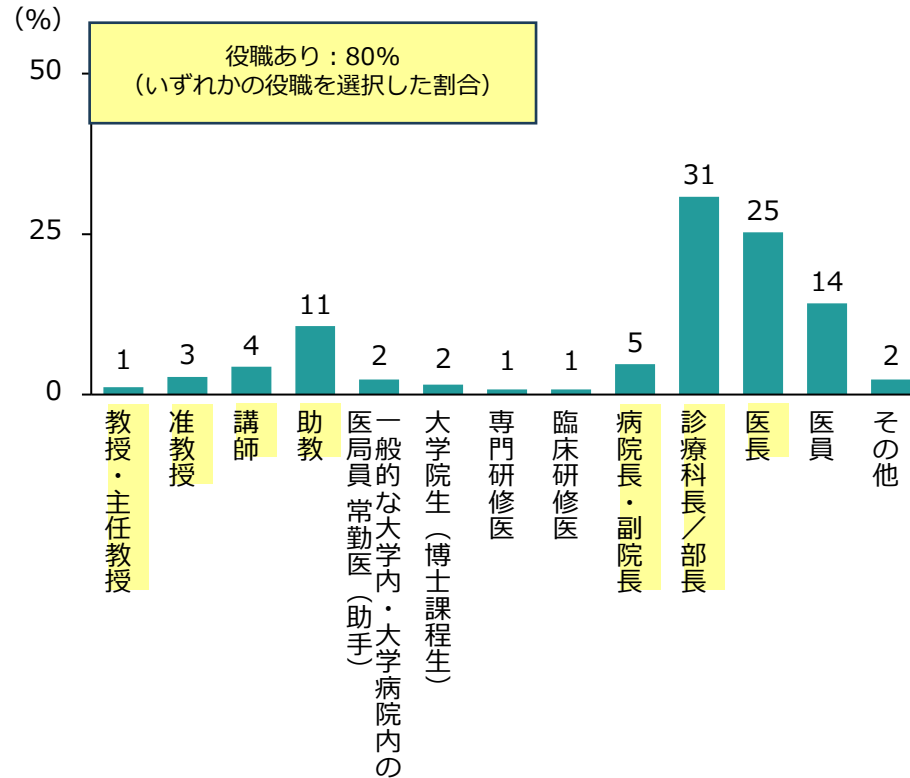
- ✓ 診療科は消化器内科が47%、消化器外科が49%であった
- ✓ いずれかの役職に就いている割合は80%と、大半を占めた
- ✓ 薬剤の採用に関与している割合は87%、直近3年間で治験に関わった割合は30%であった

(n=253)

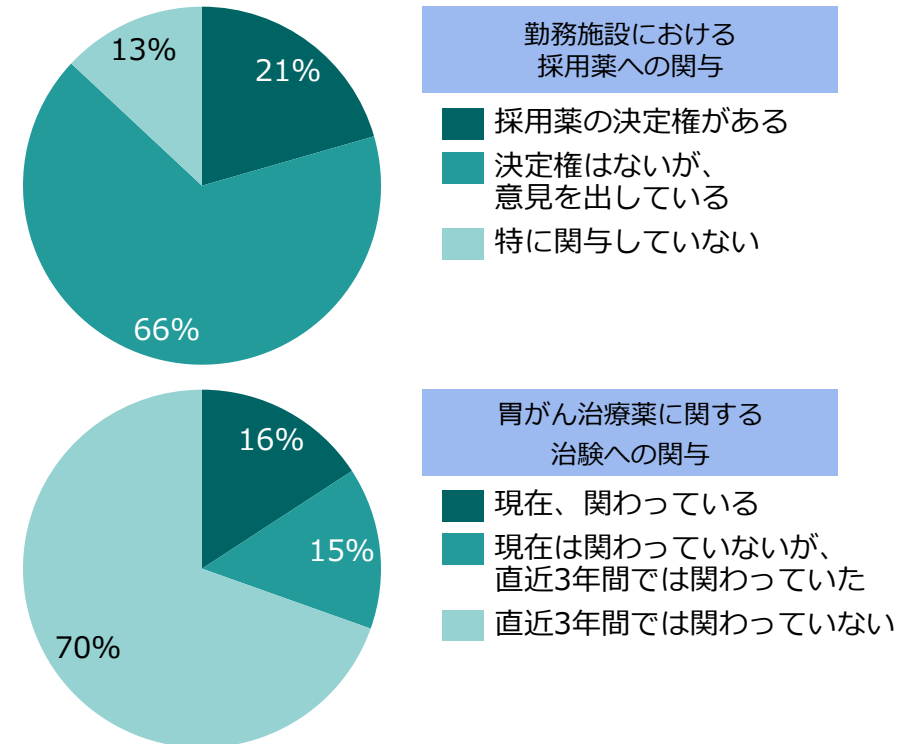
#### 診療科



#### 役職



#### 採用薬・治験への関与状況



SQ1.先生の主な診療科を教えてください。/F5.先生の主な勤務施設での役職を教えてください。(MA)

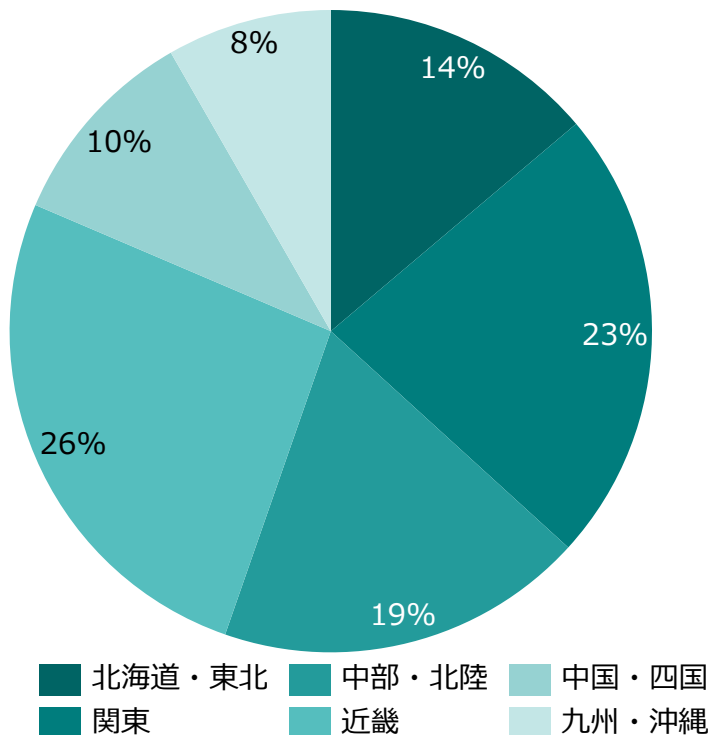
F6.先生の主な勤務施設における採用薬への関与度について、当てはまるものを選択してください。/F7.直近3年間における、胃がんの治療に関わる新薬や適応拡大などの治験への関与経験について教えてください。

### 全体

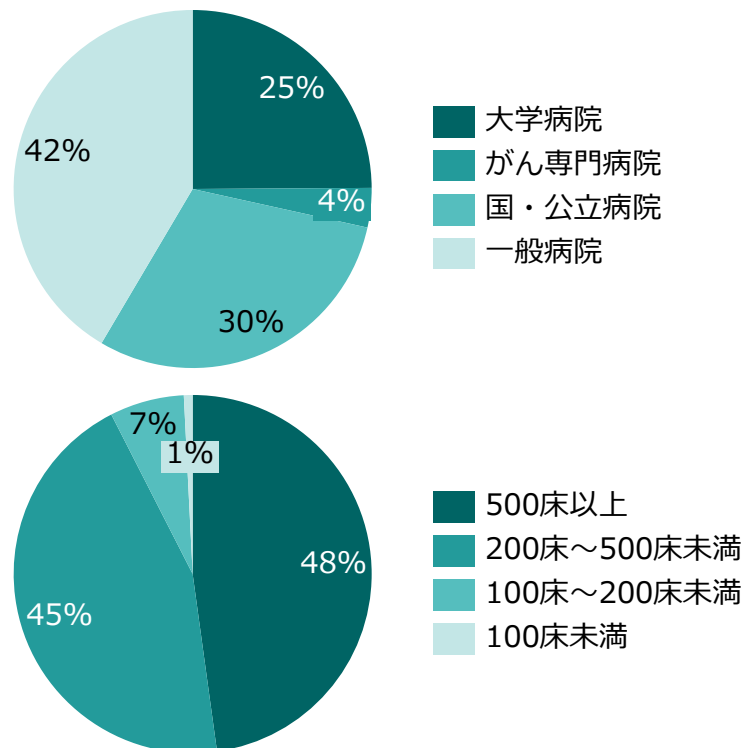
- ✓ 勤務施設のエリアは近畿が26%と最も多く、次いで関東が23%、中部・北陸が19%だった
- ✓ 勤務施設は一般病院が42%と最も多く、病床数は200床以上が大半を占めた
- ✓ がんゲノム医療関連施設は65%、2023年4月より開始した日本胃癌学会認定施設はAが32%、Bが9%だった

(n=253)

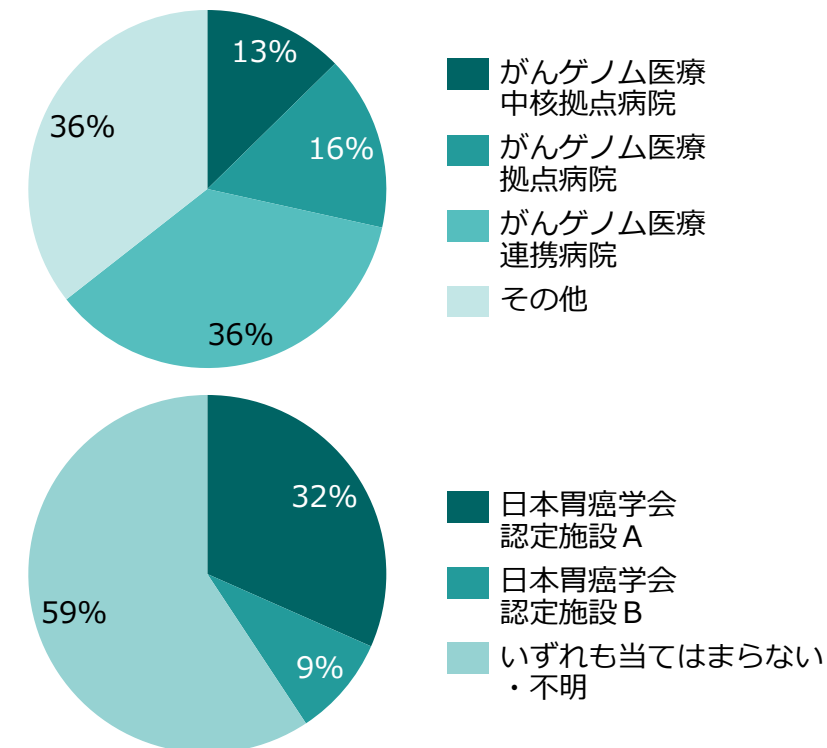
#### 勤務施設のエリア



#### 勤務施設の概要



#### 勤務施設の区分



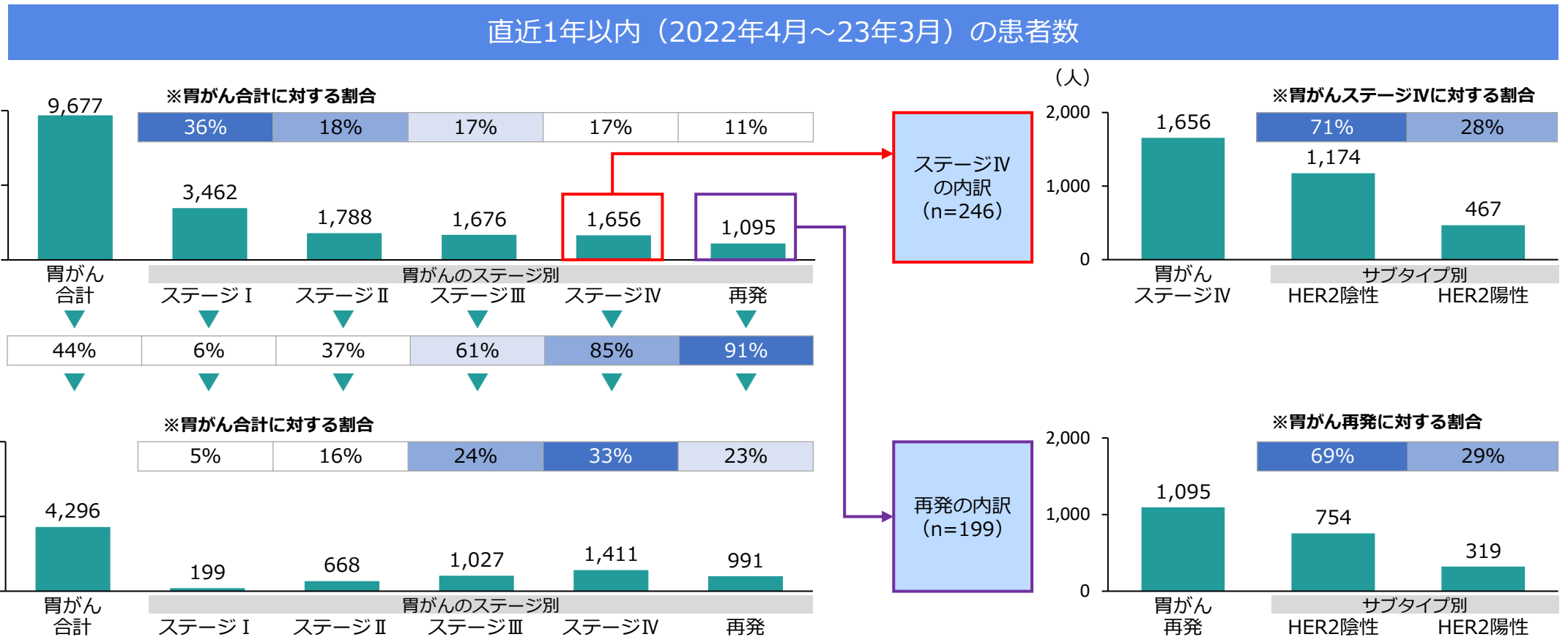
F1.先生の主な勤務施設の所在地を教えてください。/SQ2.先生の主な勤務施設を教えてください。/SQ3.先生の主な勤務施設の病床数を教えてください。

F3.先生の主な勤務先について、がんゲノム医療における施設区分を教えてください。/F4.先生の主な勤務先について、日本胃癌学会の認定施設における認定区分を教えてください。

### 全体

- ✓ 直近1年以内に診療した胃がん患者の内訳を見ると、ステージⅣと再発例の合計で全体の28%を占め、その約9割に化学療法が実施されていた
- ✓ HER2のサブタイプ別に見ると、ステージⅣ、再発例ともHER2陽性は3割弱であった

(n=253)



SQ4.【直近1年以内（2022年4月～2023年3月）に】先生ご自身が診療した胃がんの初診時におけるステージ別患者数とそのうち化学療法を実施している患者数をカルテベースで教えてください。

Q1.先生が診療している胃がん患者のうち、初診時ステージⅣと再発のそれぞれにおけるサブタイプ別の患者数を教えてください。





# Oncologist Fact Report

胃がん 2023年7月版

医療者とともに

**MT** MEDICAL  
TRIBUNE

**CONFIDENTIAL**

本資料は、貴社社内関係者のみが使用するものとし、本資料の  
いかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの  
事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、または貴  
社外部への配布を禁じる。